

臨床放射線

編集委員

後 閑 武 彦
橋 本 順
今 井 裕
栗 原 泰 之
森 壘
山 下 孝

編集協力委員

畠 中 正 光
小 川 恭 弘
松 永 尚 文
森 宣
村 田 喜 代 史

編集後記

▶ 今月号の特集は、“放射線科診療における肝臓がんの最新の画像診断と治療”で、山下康行先生と金澤 右先生のお二人に企画して頂き、画像診断については祖父江慶太郎先生に、治療の中のIVRに関しては荒井保明先生と山門享一郎先生に、そして放射線治療に関しては加藤徳雄先生と作原祐介先生に執筆して頂きました。肝臓がんの診断ならびに治療は、古くから日本ではじめられて発展し、世界の肝臓がん診療を牽引してきた領域です。画像診断には、主にCT、MRIならびに超音波検査が用いられており、さらにGd-EOB-DTPAなどの肝特異性造影剤も含む造影剤の進歩も相まって、小さな肝臓がんも確実に診断できるようになり、さらに肝血流などの機能評価画像や肝臓の予備能評価などにも応用されるようになりました。IVR治療も、これまでの多くの工夫を積み重ねて確立されてきた肝動脈化学塞栓術や、さらに薬剤溶出球状塞栓物質などの新しい塞栓物質も登場し、治療成績は向上しています。また、ラジオ波焼灼療法も広く普及し、画像誘導下での治療や肝動脈塞栓術との併用による治療など新しい技術が用いられています。放射線治療においても、体幹部定位放射線治療や陽子線を用いた治療により周囲の組織への有害事象を抑えることで、十分な線量にて局所制御を向上させています。本特集は、まさに日本で進歩してきた肝臓がんの診断と治療の変遷と新技術の知見を知ることのできる素晴らしい内容です。

▶ 現在、国は人工知能（AI）の活用を推進しており、医療においてもその活用が期待されています。とくに画像診断においては、病変の自動検出や過去の画像所見との対比による客観的な変化の評価、さらにこれらの多量の情報データの蓄積に基づいた診断や治療方針の決定などにも期待されています。自動車も、自動運転の普及により交通事故ゼロを目指していますが、医療においてもAIを活用して見落としや誤診のない、いわゆるヒューマンエラーがゼロの画像診断システムの構築を目指したいと思います。

今井 裕

「臨床放射線」第62巻第4号

2017年4月10日発行（毎月10日発行）

定価（本体2,500円＋税）

年間購読料金 定価（本体39,900円＋税）
[年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代]
年間予約購読者に限り送料無料

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14

TEL 03(3811)7165 編集部直通

TEL 03(3811)7184 営業部直通

FAX 03(3813)0288

ホームページ <http://www.kanehara-shuppan.co.jp/>

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社

広告申込先 福田商店 TEL 06(6941)5600
FAX 06(6941)5605

JCOPY <（社）出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、（社）出版者著作権管理機構（電話03-3513-6969、FAX03-3513-6979、e-mail:info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。